

年 組 名前：

問1

「大気の水」とは、何を生み出す現象のことでしょうか。

.....

問2

研究チームは、目に見えない「大気の水」を観測することで、何を期待していますか。

.....

.....

.....

.....

問3

「大気の水」の発生で、2018年と2020年に豪雨となったと考えられています。その豪雨の名称を教えてください。

2018年

2020年

問4

観測に使用する「ドロップゾンデ」は、何を計測する機器ですか。

.....

「大気の水」観測のイメージ

線状降水帯メカニズム解明の鍵 「大気の水」初観測へ

守る命

名古屋などの国際共同研究チームが6〜7月、豪雨をもたらす線状降水帯を生み出す「大気の水」の日本初となる航空機観測を実施することが18日、関係者への取材で分かった。大気の水は上空で帯状に続く水蒸気の流れだが、水蒸気の量などの正確な構造は分かっていない。近年に多発する豪雨のメカニズム解明につなげるのが狙い。

チームの坪木和久名古屋大教授は「正確な水蒸気量と立体的な構造が分かれば、豪雨の発生予測につながる」と期待を寄せている。

大気の水が東シナ海の上空で発生すると、九州や西日本に流れ込んで線状降水帯を形成し大雨をもたらすとみられる。熊本豪雨(2020年)や西日本豪雨(18年)の原因にもなったと考えられている。観測には米国や台湾の研究機関が加わり、気象庁にも直ちにデータを送信する。2日間にわたって沖縄・与那国島など、東シナ海周辺での観測を検討している。大気の水そのものは目には見えないが、あると予想した空域を飛びながら、気圧や温度などを計測し無線で伝える「ドロップゾンデ」を約5分置きに投下する。

気象観測データに基づく独自のシミュレーションから、水蒸気量が特に多く、大気の水が発生しやすい空域を狙いを絞る。大気の水のサイズにもよるが、1回千キロ程度を観測する予定だ。

名古屋大は16年度から、航空機を使った観測プロジェクトを開始。17年には超大型の台風21号を直接観測することに成功している。

(2022年6月19日付 山梨日日新聞1面)